

第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時：

令和6年7月9日（火）13時30分～16時00分

■場所：

草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津） 501会議室

■出席委員：

乾委員、深川委員、森田委員、四方委員、宮木委員、出呂町委員、井戸田委員、浅見委員、磯山委員、木下委員

■事務局：

【行政】

河合部長、小寺副部長、西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、石原主任

■中間支援組織

【（公財）草津市コミュニティ事業団】

福留事務局長、茶木課長、栗田氏、中村氏

【（社福）草津市社会福祉協議会】

秋吉課長

■傍聴者：

無し

1. 開会

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。

本日は、公私共に多忙な中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、まちづくり協働課の西山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第9条の規定に基づき、傍聴が可能となっております。

続きまして、今回より新任委員として6名の方をお迎えいたしますので、まず事務局より自己紹介をさせていただきます。

（事務局紹介）

なお、当委員会は、会議録について後日公表させていただきます。また、記録のため、委員会の様子を写真に撮らせていただきますこと、御了承ください。

本日の資料でございますけれども、予めお配りしておりましたが、資料 1 に一部修正入りましたので当日配付させていただいております。

また、机の上に印影のついた資料を置かせていただいておりますけれども、当委員会のための諮問書ということで、後ほどまた御説明申し上げます。

そしてもう一つが、第 7 回草津市福祉教養大学ということで今年度の福祉教養大学のチラシを参考までにお配りさせていただいております。

2. 諮問について

【事務局】

それでは最初は実務的に進めさせていただいて、恐縮ではございますけれども次第の 2. 諮問についてに入らせていただきたいと思います。

この草津市協働のまちづくり市民参加評価委員会では令和 2 年 3 月に策定いたしました第 2 次草津市まちづくり推進計画の計画期間が満了することから、新たに今年度第 3 次草津市協働のまちづくり推進計画を策定するため、御意見を頂戴いたしたく、諮問をさせていただくものでございます。

後ほど委員長を選出した後、まちづくり協働部の河合から正式に諮問をさせていただきたいと考えております。

3. 委員紹介

【事務局】

次に委員の紹介でございます。資料 1 の 2. 委員の構成等を御覧ください。お時間の都合上、後ほど自己紹介をいただきますけれども、一旦事務局の方から御紹介をさせていただきますので簡単に御挨拶をお願いしたいと思います。

(委員紹介)

皆様どうかよろしくお願ひいたします。

4. 委員長・副委員長の選任

【事務局】

次に次第 4. 委員長および副委員長の選出に移らせていただきます。

草津市附属機関運営規則第 4 条第 1 項に附属機関に委員長および副委員長を置くとしており、同 3 項には委員長および副委員長は委員の互選によりこれを定めるとあります。

委員長および副委員長の選出について、皆さんいかがいたしましょうか。

【E 委員】

事務局に一任してはいかがでしょうか。

【事務局】

はい、ありがとうございます。事務局一任というお声をいただきましたので事務局案としては委員長にA委員、副委員長にB委員にお願いさせていただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか？

(委員拍手)

【事務局】

ありがとうございます。異議なしということで、委員長につきましてはA委員、副委員長につきましてはB委員にお願いしたいと思います。

A委員長、B副委員長におかれましては恐れ入りますけれども、前の委員長席、副委員長席に移動いただきますようお願いします。

それでは、先ほどの諮問をまちづくり協働部長の河合からA委員長にお渡しさせていただきます。

委員長は前をお願いします。

(諮問)

【事務局】

ありがとうございます。それでは御就任いただきました委員長と副委員長からそれぞれ御挨拶をいただきたいと思います。

委員長よろしくをお願いします。

【委員長】

(御挨拶)

今回、協働のまちづくり推進計画を第3次にまとめ直すというのが第1の任務ということになっています。併せてそれについて委員会から、協働のまちづくり推進計画について意見をくださいという諮問になっております。ただ突然言われても、多分わかるわけがないと思っています。市の職員でもこんなもん当然言われて、答えられる人はあまりいないだろうというぐらいの代物です。

むしろこの委員会に対して、皆さんにお願いしたいとか、こんな委員会ですよという話を

先にお伝えしておきます。

まず、草津市で市民参加や市民協働というのを市民目線できちんと語り合う委員会はこれしかないのです。ということは何でも喋った方がいいです。要するに限定的にこんな役目ですというのを必死になって頭に置いて喋らなくていいのです。評価委員会と書かれているから、何か通信簿をつけなければいけないのかなと思うかもしれませんが、通信簿をつける前が大事ですね。学校でも通信簿に4とか5とか3を付ける前に、どういうふうに伸びたかや、どの辺に問題があるかとかいう話をするのが大事ですから、そういうことを話す場だと思ってください。

二つ目が、市民を代表してなんて考えなくて良いです。だから、ここにいる人たちがいろんな立場で来ているとすると、その立場で語っていただければそれで十分です。全部わかっている人はまずいないし、これまでもずっと議論してきた中で、みんな難しい話だと言っていることです。ですから、わからなくて当たり前ということを前提にして、私の立場で見たらとか、私が経験した話ではとか、私が草津で暮らしている中ではというのでお願いしたいです。ですから、どんな方でもその立場で話してください。わからないということを大事にして喋ってください。わからないものはわからないと言っていいです。わかる人が少ないからわからないという話は言って当たり前です。要するにそれぞれ市民の立場で話してください。一方で、計画に落とし込まなければならぬ内容や、いろいろな市の仕組みや制度の関係の話も出てきます。ただ、それを必死になって考えるのは事務局です。市民の人が普通の目線で語った話を受け止めて、意を汲んでまとめるのは事務局です。かといって事務局が一方的にするのではなく、皆さんの話をまとめました、こうですって話が返ってきたときに、疑問等を話してもらうという役割だと思ってください。だから難しく考えなくていいです。一番それ大事な部分です。だから、一番お願いしたいのは、遠慮なく話してくださいということです。当然自分が喋ると同時に他の違う立場の人の話もしっかり聞いてください。そういう委員会にできたらと思っていますし、私自身はそうしていきたいと思っています。一応そういうことを皆さん方に最初にお伝えして、皆さん方の参加と協働で、この委員会を運営できたらいいなと思っています。ということでよろしくお願いします。

【副委員長】

(御挨拶)

5. 自己紹介

【委員長】

最初に自己紹介していただきます。二つお願いしたいことがあります。一つは、名前と所属と書いていますけども、要するに私はこんなことしています、あるいはこんな立場です、こんな立場でここにいますという話を適当に書いてください。二つ目は、協働とは何か。三つ目は、この委員会に期待することとか、私こんなつもりでここにいるんですという話を、

手短に書いていただきます。3分取ります。試験でも何でもないので、今の感覚で書いてください。

(記入)

(自己紹介)

【委員長】

ありがとうございます。急には覚えられませんが、何となくいろんなことをやってきた人、あるいはいろんなことを考えている人がいるというのがわかった上で、今日から話をスタートしたいと思っています。問題なければ事務局があとで集めていただきますか。

【事務局】

そうですね。いただきたいです。

【委員長】

名簿と一緒にまた配布してもらえればと思います。

ということでいよいよ今日の話の本番が始まるわけですが、結構盛りだくさんです。今日の話というのは、まずこれまでの経過で今回の第3次に繋がる話です。直接繋がるのは、これまでいろんな議論をしてきた広い意味での評価や、参加と協働の議論をしてきた話ですが、そこから見えてきた話をきちんと継承するという話が報告事項の①になりまして、それを整理して第2次の段階でこれぐらいのことができたのではないかなという話をテーマごとに整理してあります。

今日の一番大事なものはそれを聞いた上で、今ここにいらっしゃる皆さんがどういうふうにか考えるか、いわば今回の第3次案に向けての出発点としての意見を出し合うというのが一番大事な部分になります。ですから皆さんに沢山喋ってもらいたいながら、まず事務局ばかり喋ってもらうことになるのですけれども、「こういうことを言いたいな」という話を溜めといてもらえばいいかと思います。

6. 報告事項

【委員長】

では、報告事項の資料2の説明をお願いしますか。

【事務局】

(資料2の説明)

【委員長】

急ぎ足でしたから、100%は伝わらなかったかもしれませんが、とりあえず一昨年度、昨年度の議論の整理になります。それをまとめて言うと難しいですね。

1番最初に出たのは、一体この委員会は何をする場なのかという、もう少しシンプルだけど大事な疑義も出ました。何が言い求められているのかということも出ました。それで今日の最初の話になったのですよね。それ以外には先ほど言ったみたいに、コミュニティ事業団や社会福祉協議会という中間支援組織がありますけど、普通の人にはなかなか見えてこな

いという話もあります。

また、細かくは見ていただければいいですが、縦割りになっているなどの課題は当然いろいろ先ほど語られました。語られていた話で私が印象に残っているのは、一つはやっぱり具体的な話と繋げながら考えなければならないということです。当然皆さんに委員の人が関わっているのは具体的な話ですから。それと関連させながら議論を進めなければならないという話です。

正直できなかったけども、まち協の話を聞いたりであるとか、市民活動の話を聞いたりであるとか、そういう話も出ていました。そういう姿勢は引き継ぎたいと僕は思っています。

あとはやはりまち協だとか町内会の問題点に触れまして、まち協へのヒアリングもありましたし。

一方で市民活動との関係の話もありました。これは草津市の一つの大きな特徴かもしれませんが、実は地域でやっている話と市民活動でやっている話を、同じような人が繋がりがながらやっているような話もあります。

前回から継続している方で補足しておくことがもしあればお願いします。

【D委員】

結局、市民視点と行政視点の課題認識が同じだったとか、各まちづくり協議会のヒアリングでも、どこも同じようなことを悩んでやっているから、共有できたらいいと思いました。最終的にどうなのかというところや、課題としてはどうなのか、というところがある。

【委員長】

他の方は新しくこられた方で確認しておきたいという話があればお願いします。

【I委員】

資料にパブリックコメントが機能していないというデータがあります。これにちょっと意見を言わせてもらおうと、分厚い本があって、それを見てこれについて意見を言ってと言われてもなかなか難しいと思います。だからそれに対する何かひと工夫が必要、例えば質問形式とか取り組みの例とかが必要かと思います。せっかく苦勞して作ったものでもあまり機能しないと市民の声が届かないのもったいないと思いました。また、それ以前にパブリックコメントに到達できず、見ることもすらできていないということも多くあると思います。それに対しては、広報についてもなかなか見にくいから、回覧板のようなものがありますよという通知なんかをしたらいいいのではないかとに思いました。

それとついでなのですが、市長への手紙というのも同じように読んでみたら、これで意見を言えというのは難しいのではないかと思います。逆に市長への手紙で意見が出てきたらそれも一つの市民参加になるのではないかと思います。

【委員長】

大事な指摘ですね。それはむしろ第3次案の方にも生かしていく話だと思いますけどね。第一、パブコメがほとんどないですね。パブコメをしましたという話は評価になりますが、それがどう生かされているかという話は、やはり大きな課題として残っています。その中身をどう作っていくかという話は、非常に大事な第3次案の話だと思います。

それ以外はよろしいですかね。後でまた実は意見を出す時間を設けます。無理やりで出してもらいますので、一応これをベースにしながら、資料3もこの辺は粛々と進めさせていた

できます。資料3でいくと、今の話をどう総括するか、次の課題をどう整理するかという話は事務局の方に整理していただいています。これはもっと読むのが面倒くさいですけど、なるべく簡単に説明してあります。

【事務局】

(資料3について説明)

【委員長】

草津市は頑張っているから相当いいとこいつている部分もあるかもしれないけれど、まだ非常に不十分な部分もあるというような形で基本的には整理してもらっています。

7. 協議事項

【委員長】

さて、ここまでちょっと慌ただしく来たんですけどもこれから先1時間くらい取っています。

(ポストイット配布)

皆さん方の意見を出していただきます。一気にやると訳がわからなくなるので、グルーピングします。本当は皆さんの方もグルーピングしようかと思いましたが今日は最初ですし、全体の意見を共有した方がいいと思うので、10人もいてちょっとしんどいかもしれませんが、皆さんの意見を集めて、整理を草津市の方でもらおうと思います。

まず、最初の課題を「市民」とします。草津市に住んでいる人の問題と基礎的コミュニティ、要するに町内会や自治会、あるいは連合会とかがあると思いますけど、そういういわゆる御近所さんの問題についてまず書くことを書いてください。

資料にいろいろ総括も書いてありますので、この課題総括を受けてでもいいですし、多少それを無視してプラスアルファの話でもいいです。

思っていること、今自分の立場で感じていることというのを、用意しておりますポストイットに記入してください。

まず4分ぐらいで書いてもらいます。1枚には一つの話を書いてください。沢山ある人は4枚でも5枚でも書いてください。それを皆さんで出し合って説明してもらいながら、ホワイトボードで整理していくようにします。

まず市民と基礎的コミュニティについて話し合しましょう。今日の話は広げるものです。「こんな話題もある」や「日常的に感じたのはこんなことだ」という話をお願いします。第3次計画はまだ頭に置かなくていいです。良いところは良いと書いてくださいね。可能なら名前も書いてください。匿名がいい人は必ずしも書かなくていいですけども、意見が出た後でもう1回そこに戻ることもあるかもしれませんから。

(記入)

【委員長】

ここから先は他の人の意見を聞きながら、プラスアルファとしてはまた付け加えてもらってもいいので進めていきましょう。

【D委員】

私がまず所属しているまちづくり協議会というところだと、いろいろ取り組み事例が紹介されているわけですが、成功事例というイメージで書いているのに対して裏側にいろいろ悩ましい部分、あるいは別の意味でも失敗事例を共有化してもらえればと一つ思いました。このことはまち協に限らないですが。

また、取り組みの継続性も併せて載せてほしいと思います。その後うまく続いているかどうかまで見たいなと思いました。

【委員長】

事例の話としてですね。似たような話を感じた人や私もそれに近いよって話があればお願いします。

【D委員】

町内会では高齢化が進んでいて若い世代がいないという複合要因の担い手がなくなるという問題があります。

【委員長】

担い手がいない。これは高齢化の話と、それと若い世代が忙しいっていう大事な話があります。

これについては同じようなことを考えている人はいますか。

【E委員】

高齢化による役員の負担が大きいということがあります。

【委員長】

これはリアルな話としてありますね。

この問題についてどなたかあります。

【J委員】

近い意見ですが、いわゆる地域コミュニティの若者離れがあります。私は常盤学区ですが、なかなか若い世代が戻ってこない、どうしたらいいのだろうっていうのはこの前議論していました。

【委員長】

どうしたらいいのでしょうか。そこに住んでいるけど参加しない若者のことではなく、その地域に若者がいなくなるという流出の話ですね。なるほど、草津の場合は流入している地域もあれば流出している地域もあるのですね。

【I委員】

高齢化について、お話してもいいですか。高齢化は町内会役員の後任のことであったり掃除のことであったりいろいろ支障をきたすものですが、高齢者の中でも元気な高齢者とそうでない高齢者がおられるので、やる気のある人とそうでない人の温度差をどうすればいいかと考えている。

【委員長】

確かに高齢者をひとくくりにできないですね。実際、地域の担い手が高齢者という問題があって、それが悪いわけではないわけですからね。リタイア組で支えられているというところがありますよね。

【C委員】

役員にならないと顔を合わせる機会がないです。

【委員長】

基礎的コミュニティですね。なるほどね。総会もあまりないのですか。

【C委員】

総会は年に1回ありますけど、役員しか集まらないです。

【委員長】

どこもそうなのですかね。

【D委員】

少し違いますが、年に1回1時間程度集まるだけです。

【C委員】

顔合わせ程度に集まって、ざっくばらんに近況とかを喋るという時間はないです。

【委員長】

そういうのをうまくデザインしているところはないのでしょうか。

【D委員】

例えば事例として書いていますけど、バーベキューパーティーをやるとかはしていますね。

【委員長】

なるほどね。顔合わせたくなる、出てきたくなりますね。

【D委員】

年に何回かやりますが、それも全ての人が出るわけではない。

【委員長】

それはなかなか難しいですね。全ての人じゃなくても、地域の中で少しでもいいですけどね。

【G委員】

町内会に所属しているという意識がないという問題があります。流入してきて会費は払っていても、自分がどこの町内会かわからないとか、子どもが小学校に行っていなかったら、

どこの小学校区かもわからないとかの問題はあります。

【委員長】

子どもが私学とか行っていたらそうですね。それに対する対策とかはないですか。

【G委員】

それについての対策という話ではなく、会を離脱している人がいるため団体の存続が危ぶまれているということです。

【委員長】

その他のところも離脱する人が多いのでしょうか。

【D委員】

町内会のメリットを説明するのが非常に難しいです。

【F委員】

私も書きました。町内会もそうですし、子ども会の役員もやっているのですが、子ども会も結構入らない方が多いのです。全員入ってほしいと思って沢山会議していたのですが、メリットとデメリットは何ですかと絶対言われて、そのときに誰も上手く答えられない。楽しいよとかの漠然としたことしか言えません。

町内会については、何か仕事があるというイメージばかりで、何をしないといけないのですかというのが全然わからない。

【委員長】

要するに顔を出したら何か押し付けられるとかですか。

【F委員】

不公平感や損したくない、押し付けられたくないみたいな、自分ばかりという考えの人が多いです。

【委員長】

社会学でいうフリーライド、タダ乗りという関係ですね。実際はそういう話はあちこちで抱え込んでいる話なのですね。

【F委員】

「交流だけでも」と書いたのですが、子ども会に何故入ってほしいかと言えば、やはり今であれば熱中症特別警戒アラートとか出たら、中学校が急に午前でお休みになったりとか、地震で急に午前で帰って来たりとかあるじゃないですか。そのときに子ども会に入っていない人の子どもって、誰がお母さんに子どもが帰って来たという連絡をしてあげるのか。子ども会に入っていてくれたら、グループ LINE でこれから帰ってくるらしいよとかが一斉に流せますが、入っていないとそれが誰にも伝えられないし、誰も届けられないっていうような状況に危機感を覚えています。

子ども会の仕事を全部委託してでも、グループに入ってほしいという思いがあったので

すが、参加率は上がらないですよ。何も仕事はないよと言っても入ってくれないですよ。

【委員長】

それに対する対策を今すぐする前に課題を出してしまいませんか。あと書いているもので関わりがありそうなものがあればお願いします。

【I 委員】

町内会のことですけども、防災とかの観点からカメラの設置をする際に、個人情報の関係で嫌がられる場合や、町内会の家庭状況をどんな人がいるのかを聞くとともに個人情報との関係でうまくいかないという問題があります。

その辺は災害にしても犯罪にしても、個人情報とは一体となったものだから、個人情報を把握しなかったら、けがや病気など何か起こったときに何がどうしたらいいかわからなくても困るから。

先ほど町内会の高齢化の問題で、掃除などが難しいと言いましたが、個人情報の問題に対して情報交換の場ができるか、むしろそっちの方が良いのではというような意見もあります。

【委員長】

個人情報は今大きな問題になっていますよね。特に高齢者の見守りといった話をどこまで共有できるかというところは多分社協の方もそういう問題に関わっていますよね。

【H 委員】

私いいですか。ちょっと何か特定のつというわけではなく、皆さんの話を聞いていると特に基礎コミュニティはそうなのかなと感じたのですが、そもそも何か地域の方が町内会に属しているわけではないので、四方さんや井戸田さんもおっしゃられたようなメリット、デメリットをみんなふわっとしか知らない。

少なからず全員が享受できているのにも関わらず、町内会は何となく必要である集まりだというのはわかっていても、それに自分たちがどれだけ助けられているとか、享受しているのかをきちんと知らせないと、そもそも成立していないため、町内会の価値みたいなものがうまく共有化されていない。その結果、町内会の住民のボランティアが沸き出てこないで、自分は別に関わらなくてもいいのかなって思ったりする状況だと思いました。

それともう一つだけ関連して、今自分が住んでいるところの御近所付き合いとかがどんどん少なくなってきた、仕事で都心に出ていたりとか住む場所も変わったりとかすると、その生活圏内で新しくコミュニティができたりというのも実はそんなに多くなくて、逆にネットとかで元々の繋がりですとネットワークが維持されているケースというのめたくさんあるので、だんだんこういうボランティアに寄っているような、何も参画しなくても、何かしらのコミュニティ参加しているみたいな状況も出てきているのかなと思います。ですので、ボランティアだけで、それを回すのは結構きついかなというのは思いました。それであれば、そこに対して必要な対価をきちんと用意しないといけないと思います。それは、そのコミュニティに属する人たちで必要な分をみんなで寄せ集めて、対価として払ってあげたり、会費みたいなものを払ったりするなど、参画の仕方もいろいろあっても良いのかなと思いました。

【委員長】

これはなかなか難しい話で、どれもこれもこの悩みは、ここがうまくいかないといろんな話がうまくいかない部分ではあるのですね。

【J 委員】

今の地域コミュニティについては、いろいろ組織を最終絞っていった中で、最後にやはり残るのは防災と環境と福祉だと思うのですが、特に防災は、地震で誰がどこにいるかを言う必要があるので、そういう訓練として、今年は防災訓練を兼ねた運動会みたいなお菓子運動会をしたのですが、コロナでなくなってしまいました。

最近はまだその活力がなくなって何もしていませんが、そういうようなものをしていくというような形での絞って、必要な地域で必要なことをするように、それこそ協働できるようにするのはどうかというところが一点です。

それからもう一点は、子どもを巻き込むのが大事だと思います。若者離れもそう、やはり子育て世代も巻き込む必要があると思いました。ただし問題なのは、子ども会さんとかは、親が大変だからそういう行事をしたくないという風になってくる。そうなってきたら親を助けるような地域の組織や、協働、支援が必要だと思います。昔していたようなコミュニティの中での協働みたいなのが必要ではないかと感じました。子どもを巻き込むとやはり活気が出ますし、子どもを連れて親も参加しますし、そういうところが市民活動の1つだと思います。

【委員長】

その辺りは、うまくいっているところの事例に学ぶという話や、あるいは文字通り市民活動型の人たちのサポートがうまく地域と連携リンクしているあたりの話が参考になったりするだろうと思うので、そういう事例をうまく探していくということかもしれませんね。

次ここになると語れる人と語れない人も混じってくるかもしれませんが、草津市では各学区にありますまちづくり協議会や、市民活動がすごく活発に行われています。前回まち協の方でこんなことしていますよって話はたくさん出ているので、ここについて今こんないい点もあるという話もあるでしょうし、こんなマイナスが発生している、この辺は何とかしなきゃいけないという話はあると思います。そこについてまた、3、4分で書いていただいて、意見を共有したいと思います。

(記入)

【委員長】

そろそろいいですかね。今度は意見を聞いていきましょう。これ私絶対言いたいという人がいたら先に手を挙げてもらったら、その人から進めていきます。

【I 委員】

町内会と比べてまちづくり協議会となると距離が遠くなってしまって、今まちづくり協議会という場所を利用しているだけになっています。場所を使っているという感じがしないので、催し物などがあってもわかりにくく感じます。

【委員長】

まち協と言われても場所を使っているだけという印象が強いということですね。まち協の人にとっては反論もあるかもしれませんが。だから同じように井戸田さんからまち協とはなんだという非常にシンプルな御意見を頂いています。

【F 委員】

まち協がいろんなイベントをしてくださっているのも知っていますし、まちづくりセンターを管理してくださっていることも知っていますが、例えば引っ越して来た人にまち協って何しているのと言われてたらそれ以上のことは何も教えられないと思います。

【委員長】

なるほど、わかりました。

【C 委員】

市民活動ということで関わっている渋谷る会というのがあるのですけれども、先ほど市民コミュニティの中で結構若者がただ乗りしているとか、活動から離れていっているという話がありましたが、この渋谷る会はなぜか若い世代、働いている世代が活躍しています。なぜ活躍できるのかなと思うと、やはり Zoom や LINE といったインターネット関係で情報共有したりだとか、今回は Canva で作ったチラシを全員で編集をして修正するという、なるべく 1 人の人に負担がかからないようにというメンバーの心遣いがあるうえで、協働で一緒にやっていこうという思いがありますし、何かその辺りで最初に出てきた基礎的コミュニティやその辺りで若者がというようなところとは違う現状があります。

この渋谷る会というのも実はまち協の方からの予算をいただいてボランティアで集まった方たちが活動しています。また、書いていないのですが、同じく Code for Kusatsu という団体でも、市民活動をしているのですが、そこも一緒にみんな働いているのですが、夕方とか 7 時ぐらいから例えばキラリエの協働ひろばに集まったり、あるいはそれ集まれないときは、同じく Zoom でいろいろイベントを進めています。

やはり IT とかそこら辺を使って昼間は働いて夜は隙間時間にいろんな情報を共有しています。

【委員長】

渋谷る会というのは、学区のやつですね。どういう活動をしているのですか。

【C 委員】

子どもたちを対象にされていて、子どもたちがより積極的にかかわれるように、大学や、高校を巻き込んでイベントをしています。渋谷る会のメンバーのお子さんもたくさん参加しています。

【副委員長】

C 委員と類似する意見です。渋谷る会には若い人たちが集っています。また事例にもありましたが、老上では JAGUAR の部屋さんを中心にハロウィンイベントを実施されました。多くの子どもと子育て世代の参加があり、350 人を集めました。

JAGUAR の部屋さんが中心となりましたが、まち協さんがその動きをサポートしています。子育て世代や若者の「私」の想いや問題意識を起点とした動きが、地域との協働を経る

ことによって、地域の取り組みとなっていくようなあり方が見られています。子育て世代や若者の転入が多い草津市は、そういう子育て世代の地域参加のあり方が期待できると思います。

あと、自治会に参加が少ないというのは、自治会の運営のあり方の部分もあります。LINE や Zoom を活動に取り入れることで、忙しい子育て世代が参加できるような形をつくっていくようなことも大切だと思います。それでいくと、京都市中京区では、「デジタル回覧板」の取り組みが始まっています。「デジタル回覧板」とは、自治連合会からの住民に向けた情報や、行政からの回覧チラシ等を発信する仕組みです。これまで文書綴じ付けた板を順送りにして各家庭に回して情報共有していたものを、自治連合会 LINE 公式アカウントでも発信できるようにしています。でも、これを取り入れるには、地域の役員さんたちがスマホを扱えることが前提になります。そのため、中京区では大学生のボランティアの力を借りて地域でスマホ講座を開催するなどしています。そういった点は参考になるかと思います。

【委員長】

多分この辺の話は地域ですが、志のある人が集まるというそういう場がうまくでき始めているという話が大きいなと思います。

地域組織だけでもまち協ができたことによって、こんな思いを持っている人集まれというような場面が作れるようになってきているというのも大きいのではないかな。

【D委員】

現在まち協は手挙げ方式に移行中です。

【委員長】

だから、先ほど言ったただ乗りの人はもう仕方ないけれども、とにかくやる気のある人で支えていくという話ですね。

【D委員】

センターの話は誰かおっしゃっていたけど、センターを活性化するというのは結構大事でして、志津南はセンターがすごく活性化されて、ボランティアやサークルの方たちがたくさん出入りしています。それだけでも地域内の出会いの場になります。

【委員長】

場所ってすごく大事ですね。そういう自由に使える出入りできる空間があるということこそはすごく大事で、それをうまく生かすことで逆に繋がりができていくという。

【D委員】

まち協の存在意義は、最後は防災になると思います。ただ、まち協は町内会以上に説明が難しいです。あと地域が広いとそのギャップがあって、全体で何かやろうというのは難しいです。

【委員長】

同じ学区の中でも、やっぱりギャップがあると。

【D委員】

今考えているのは分散化です。全体でやるというよりも、個別にイベントをするのを支援することを考えています。

【J委員】

今の関連で、まち協が基礎的コミュニティをどう支援していくのかというのがあるかと思いました。基礎的コミュニティの連携を支援する立場というまち協が重要であると思いました。

【委員長】

むしろこれってまち協って何ということにも繋がるとは思います、基礎的コミュニティとまち協の関係も説明していただけますか。

【D委員】

まち協とは、基礎的にコミュニティを緩く結合させる役割かなと思います。結合する意味のあるところには働きかけをしますが、無理やり結合するというのはよくないと思っています。

【委員長】

多分まち協と町内会との関係ももう一つ見えてないのかもしれないですね。

まち協自身も町内会の関係をどう繋いでいくかという問題も今後問われるのかもしれないということですね。

学区全体でこんなことをしようという話に、各町内会に個別で働きかけるという話も必要になってくるかもしれませんね。大変ですよ。

その他いかがですか。

【H委員】

教育機関は地域の活動として何をしているのかというのはあるのですが、実際に何かいろいろ活動したいなと思っている学生はたくさんいます。学生は1万3000人ほど在籍しているのですが、そのうちの7割ぐらいは勉強だけでなく、何かしらの課外活動をしていて、忙しいです。そんな中でも一部の学生はやっぱりそれでも何かしたいと思ってアクティブにやっている子なんかがいるので、この資料3のところの6ページのところに事例として取り上げていただいているまちのジブンゴト Feel→do!というのもありまして、こういったマッチングなんかも定期的にやらせていただいております、こういったことを発信しているというのを知っていただければと思います。

【G委員】

私は中学の地域コーディネーターをしまして、今年中学3年生はまめバスを活性化しようという試みをしています。

【委員長】

中学校も教育機関としてその関係を結構使えるかもしれませんね。

【G委員】

また別件で、町内会が高齢化しているのですが、地域サロンなんかを見ていると、元気な高齢者はすごく活躍していて、町内会は少し違うコミュニティなのかもしれませんが、その方たちをうまく組み込んでいけないかなと思います。

【委員長】

地域サロンは高齢者クラブとはまた違うのですか。地域サロンというのは社協活動なのですか。

【社協】

高齢者の居場所づくりということで、ボランティアさんと地域住民さんが立ち上げて、高齢者を迎え入れて、地域の中で自分たちを守っていかうとか、楽しいことをしていこう、また課題を解決していこうというので、集まっておりまして、148ヶ所市内でやっています。高齢者が約6万人ぐらい集まっておられて、それでボランティアを立ち上げております。

【委員長】

それは学区単位ですか。

【社協】

町内会単位です。学区と社協は繋がりを作るために、お金の交付の時に交流会事業などをしていただいておりますけど、基本的には単独行為で、各町内に一つか二つです。

【委員長】

町内会で設置しているのであれば、まち協との繋がりはないのですか。

【社協】

町内会との繋がりをつくっております。歩いて行ける距離の自治会館を使うことが多いので、会長さんとのつなぎ役も社協でさせていただいております。

【委員長】

その他いかがですか。

【J委員】

私も経験上、例えば小学校であり、中学校であり、その中に元気な地域の方が集まって、いわゆるコミュニティスクールなんかの取組をすることがあったので、そこでいろんな行事を考えて、子どもを巻き込んでという取組がありました。そのような形でもっと学校を積極的に使って、その子どもたちの活動を活発化させるというのは良かったなと思います。

【委員長】

先ほどの地域サロンにしても小学校にしても、地域の中で現に動いている資源みたいなものをきちんと見える化する作業が大事で、その作業をしてみるともしかすると学区ごとに少しずつ違うかもしれません。

それをちゃんと図示してみる作業は一度あった方が良くかもしれません。

それではここでは市と中間支援組織について4分ぐらいをお願いします。

(記入)

それでは意見を聞いていきます。

【C委員】

自分に関わっているところから、ラウンドテーブルの世話人をしており、参加者としてキラリエサポーターの人が結構参加してくださっているのですが、もっと一般の方にも参加してほしいなということと、先日キラリエマツリがありまして、沢山の人が来られたのですが、協働ひろばの公式 LINE のことをあまり知られていない方が多いみたいですので、そのあたりの広報関係に注力いただきたいと思います。

また、草津市コミュニティ事業団は市民活動を応援してくださるイメージがあるのですが、資料3の7ページ中間支援組織の F のところに「まちづくりイベントの共同開催」とありますが、これはどことどこ共同開催だったのでしょうか。

【事務局】

コミュニティ事業団と社会福祉協議会が同じ施設に入っているということの地の利を生かしまして、まちづくりイベントの共同開催を行ったものです。

【C委員】

あとは防災関係なのですが、草津市社会福祉協議会は何か災害があったときに災害ボランティアセンターを立ち上げられると思うのですが、それが資料から見えてこないように思います。

私自身は災害ボランティアに登録しているのですが、なかなかどういうふうに活動していけば良いのかわからずにいます。

【D委員】

市に対してですが、地域が市を活用できていないと感じます。その裏返しとして、地域密着人材が不足していることと、業務の縦割り、そして人が代わることが挙げられます。

【委員長】

市に人がおらず、地域の中にちゃんと関わってくれてないというのは、恐らく草津市の一つの特徴だと思います。

他はいかがですか。

【I委員】

我々の地域では月1回の地域サロンを待ち遠しく思っている方が多くいらっしゃいます。市からイベントに来てくれているが、もっと回数を増やしてほしいです。

【委員長】

サロンの運営者は地域の人ではないのですか。

【I 委員】

地域の人です。

【委員長】

地域、町内会、まち協、社協がリンクしていないのがもったいないですね。リンクすればお金も回るし、人材も増えるし、待ち遠しい人にとってはプラスになるような気がします。

【I 委員】

先ほどボランティアの話も出ましたが、高齢者が何かして欲しいというときに有償ボランティアというのがあったり、民生委員が病院に患者を送迎しているという話も聞くのですが、高齢者にとってはちょっとした作業でもお金を出せばやってくれるといったものがあったらいいなと思ひまして、街角にも便利屋とかいうのもあったのですが、それも最近なくなっていくと聞いていますし、困ったら社協に聞いたら良いという話もあるのですが、これからは有償にしないとボランティアはなかなかうまくいかないと思います。

【委員長】

これはやっているところありますよね。だからそういう事例は既にあるので、うまく広げていけばいいと思うんですよね。

他はいいですか。

【H委員】

私自身、よくわかってなかったところがあるのですが、多くの人が中間支援組織の活動内容がわかってない、知る機会がないという状況だと思います。存在を知らない人すら多くいたりとかするところもあるので、やはり興味関心や関わりがあって初めて知するというようなぐらいでしか周知ができてないということへの問題意識は持つべきだと思います。

【委員長】

うまく周知させなければならない。これももしかしたら学区単位でこんな場所がありますよという話から周知させた方がいいのかもしれませんが。市役所が一般論として周知するというのは相当やっているはずですが、でも見ない人は見ませんね。

【副委員長】

井戸田委員からのコメントを二つ紹介させていただきます。コミュニティ事業団からまちづくり助成を受けているということで、初めはコミュニティ事業団が何するところで何を支援してもらうのかわからなかったとのことで、わかったらすごいということと、助成金のその審査会を増やしてほしいということでした。実はそこでの委員から団体を継続する方法や、広報の方法といったアドバイス、そしていろんな人と繋いでもらったことがすごく良かったとのことで、3ヶ月に一度やってくださいという要望なのですが、恐らく相談機能の拡張で良いのではないかなと思っています。以上です。

【委員長】

ちょっと走り走りでしたけども皆さんの意見をあえて受け止めることができました。副委員長、簡単に整理してください。

【副委員長】

皆さん、沢山のご意見をありがとうございます。簡単に振り返りをさせていただきます。まとめるというよりもどんな意見が出たかという御紹介をいたします。

まず、基礎的コミュニティのところです。どの地域でも担い手の問題がありました。若い世代は、仕事や子育てで忙しくて時間がなく、担い手になることがなかなか難しい。一方で、現在の担い手も高齢化が進んでいたり、役の負担が大きかったりすることが指摘されています。では、どうしたら参加してもらえるのかといった時に、メリットとかデメリットを伝えていくことが大事だというお話ができました。メリットとしては、「災害時」、「見守りなどの福祉の面」があがっています。

その他、活動に参加している人からすると、不公平感があるというようなフリーライドの問題も指摘されています。総じてこのままでは、地縁型組織を離脱する人や、地縁型組織そのものの存続が危ういという、大きな課題に差し迫っているということでした。

一方で、やはりこの基礎的コミュニティのソーシャルキャピタルとしての価値が語られました。私も驚きましたが、地域サロンが市全体で 140 程もあって、このレベルで見守りがなされているとのことでした。

次に、まち協と市民活動団体の方に移ります。ここの関係性は密接ですが、「そもそもまち協って何というところの意識を持っている人」と、「まち協をうまく活用したり、連携したりしている人」にわかれる。例えば、渋谷の会や、参加者が 350 人も集まった老上のハロウィンイベントは後者になります。私個人の想いからはじめていること、手挙げ方式であることが特徴と言えます。またうまく若い世代が参加できるように、Zoom、LINE、Canva など使っている自治会など地縁型組織の取り組みにおいても、参考になる部分ではないかと思います。一方で、成功事例だけではなく、失敗事例を紹介して「なぜ失敗したか」を参考にしたいというご意見もいただきました。

この部分ではその他に、まちづくりセンターが地域にあることによって、活動に会場を提供できること、センターに行けば誰かに会えることが大切であると語られています。

3 つ目です。教育機関として立命館大学があり、Feel→do!で沢山のコラボが生まれていることは私も聞いています。学生に対してこういった機会を提供していくことは大事です。大学以外では、中学校コミュニティスクールの活用といったご意見が聴かれています。

4 つ目の中間支援組織については、草津市は中間支援組織がかなり充実しているというお話でした。全国からも注目を浴びています。コミュニティ事業団のまちづくり助成や伴走型支援のあり方に学ぶことは多いと思います。

ラウンドテーブルに関しては、今でもたくさん開催されていますが、これからもっとも増やしていくべきということでした。

市社協については、実際に災害が起きた時にどう動くのかといったこと、そして、これからの見守り活動をどうしていくのか、有償ボランティアのあり方をどう考えるのかについて語られました。このように、中間支援組織は充実しており、その存在はなかなか見えないけど、見えている人にとってはすごく良い組織だと言われていることがわかります。

一方で、市については地域に密着する人材の必要性が語られています。これはマイナス面での指摘というよりも、市に対しての期待として見るができると思います。中間支援組織が充実している中で、市と地域の協働の関係性、距離感といったものを今後考えていく必要があるのではないかなと思います。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。私からも一言二言言わせていただきますと、基礎的コミュニティがなかなかしんどい状況にあるのはその通りですが、草津市の場合は地域をベースにしたまちづくり協議会、つまり基礎的コミュニティの拡大版に志のある市民活動団体が入り込んでいって新しい活動が始まっているというのは大きな可能性だと思います。これらが繋がっていくことで、少し状況が変わってくるかもしれないというのは一つの話として浮かんだのかなと思います。

また、市についてあまり書かれてないっていうのはあんまり嬉しいことではないんだと思います。中間支援についての話は大事なのですが、市の人がきちんと現場をわかっているかという話です。地域の人が市の職員を知っているかという問題もあるのかなと感じました。

もう一つ今日のお話で結構大きいなと思ったのが、地域サロンについてです。これはもしかしたら一つの大きな特徴かもしれません。これ逆にお願いなのですが、社協とコミュニティ事業団と市で協働して、14学区それぞれで地域資源マップの見える化をしてほしいです。例えばここに町内会があって、まち協があってこういう活動をしているところがあり、学校との関係はこうだとか、そういうのを簡単で良いので図示した方がわかりやすいと思います。

こんな場所があって、核になるのはここだとかいう作業を一度是非してみてください。そうすると逆に一般論としてのコミュニティ事業団であったり、一般論としての社協、一般論としての参画や協働についてはずいぶんアナウンスしているけれど、それでもあまり伝わってないし、見えない人には見えない。ここだということです、ここだということですというのが見えるように一度してみるのすごく大事なことだろうという気がします。これは委員長としてお願いします。

今日はこれで解決策出すようなところまでいっていません。ただ皆さん方には今日のこの総括をベースにしながら、プラスアルファとしていろんな意見を出していただきました。これは事務局に預けてきちんともう一度再現してもらってそれが多分第3次案のベースになっていくはずです。

この辺を補強しなきゃいけない、あるいは具体的にこの辺を見ない限りはこれ以上の話いかないとか。そういう話をしていく素材として提供してもらい、次に行きたいと思います。

ただ正直言ってスケジュールを見ると、第2回が今日で、8月28日と10月8日の2回しか実は議論の時間はありません。その次の11月になると、もはやパブリックコメント用の資料が出てくる時期になりますから、内容を詰める機会は2回しかないというのはかなりタイトです。

次回やってみて、皆さん方の感覚でどうしようかというときに、もしかしたら委員会はこれだけですが、途中で簡単にミーティングだとか、あるいはどこか見に行きたいとかいう話があったときにはそういうプログラムも考えてもいいかなと私は思っています。ただそれは強制でも何でもないですから、ただ全体のスケジュールとしてはかなりしんどいので、もしかしたら一緒にプラスアルファを考えてみてもいいのかなと私は思ってますけれども、それは次回相談したいと思います。

ということで時間がないので、本当はもう少し議論したいだろうと思いますが、もしプラスアルファ話があればまた事務局の方にメールなり手紙で伝えていただければこの話に加えていくということにさせていただきたいと思います。事務局に返しますけど事務

局に返すときに、単に終わりますじゃなくて、コミュニティ事業団、社協、市と一言ずつ意見をもらった上で締めてもらいます。

【事務局】

今日いろんなことを議論いただきまして、元々資料2、資料3でも総括させていただいたのですが、それぞれの立場で御意見を頂いて、また新たに見えてきたものもごございます。その中で、あらかじめお配りしている参考資料2で、町内会長向けのアンケートを今現在実施している最中でごございます。この特徴ですが、2ページの問3ですけど、草津市内の町内会は大きく分けて5分類に分けられるのかなと考えております。5分類に分けた上で集計したら、きっと傾向が見えてくるかなと思っております。

また、8ページの問7から、町内会とまちづくり協議会との関係や、有償ボランティアというところをちょっと踏み込んで今回のアンケートで聞かせていただこうと思っています。また次回の委員会では集計結果がお出しできたら報告をさせていただいて、3次計画の方に繋げていきたいと思っております。ちょっとコメントではないのですが、コメントに代えさせていただきたいと思います。

【事業団】

ありがとうございます。コミュニティ事業団です。中間支援組織のところですごく頑張っているというお言葉を頂きまして、すごく励みになります。ただ中間支援組織としての社協さんとの連携の部分であったり、まだこれから始まる部分も多いのかなということを認識させていただきました。

委員長からの言葉でもありましたけども各学区でどんな資源があるのか、どういう課題があるのかというのを学区ごとにまとめてみてはどうかという御意見もいただきましたので、また市と社協さんとうちで相談させていただきながらそれぞれを進めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

【社協】

長時間ありがとうございます。今日聞かせていただいた中でまず一番ショックだったのが「社協の活動が見えない」ということです。実際に全国的に社会福祉協議会のアンケートを取ったときに、大体人口の2割ぐらいしか知らないということがあります。

しかし全校配布の広報を出し、ホームページを流し、大学ともいろいろな協議をしておりますが、それでも見えないと。なかなか見ようとしないと見えない福祉観みたいなものがあったり、関わってもらわないと見えてこないっていうことがあって、ちょっと社協の魅力の出し方も考えていかなければならないと改めて感じました。

また、いろんな活動を作っています。全国的に珍しく、地域福祉を1本にしてる社協なので、地域福祉のみで頑張っているところが県内でも二つだけということで、19市町の中でも目立つ社協なので、活動の魅力みたいなものを出せたらなと思っております。

あと最後に有償ボランティアの関係ですが、今とっても議論しています。無償性を潰さないような草津らしい有償性ボランティアを新たに作ってみようかなと考えておりますので、またこちら辺も情報提供したいと思えますので、また資料の方をコミュニティ事業団と一緒に作らせてもらって、報告させていただきたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。それぞれの感想を述べましたので、長くは話しませんが、先ほど委員長からもありましたように、今日沢山ご意見を頂いたのですが、どれだけ事務局が取りまとめられるか試されているような気もいたしますが、全力で頑張っ参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。